

Junior Chamber International

IWAKI

GRAND

DESIGN

2024

2024年8月発行

公益社団法人いわき青年会議所

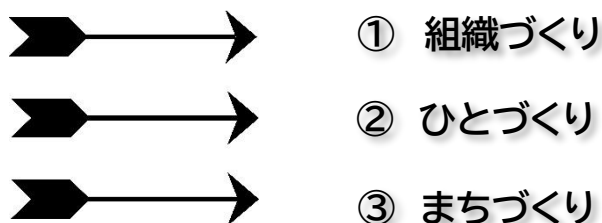
1. はじめに

いわき青年会議所が誕生してから20年が経ちました。ほかのどのまちにもない、誇りを持ったたった一つのいわきを創り上げたいという創始の心を胸に、今日まで歴史を築いてきました。諸先輩方の努力と研究の成果、そして行動の結果が、現会員に受け継がれています。これからもいわき青年会議所は、組織・ひと・まちの発展を目指し、未来社会に向けて邁進していく必要があります。

社会が急速な変化を遂げる現代において、いわき青年会議所が5年後・10年後を見据えた運動を展開していくためには、その時代に相応しい指針が必要となります。それをグランドデザイン（改訂版）という形で示しました。これを基に、地域づくりの団体として、明るい豊かな社会を創造していきましょう。

2. いわき青年会議所グランドデザイン基本方針

「組織づくり」、「ひとづくり」、「まちづくり」の3本の矢を掲げ、どれが欠けても成り立たない持続可能な運動を展開していきます。



3. グランドデザイン全体像

| ① 組織づくり | |
|---------|---|
| 内部運動 | <p>A) 会員一人ひとりの成長</p> <p>I. 未来を切り拓く力 II. リーダーシップを身につける III. 社業にも活かせる経験を積む</p> <p>B) 組織力の向上</p> <p>I. 多様性を受け入れる組織 II. 挑戦する機会を提供できる組織 III. 地域社会に影響を与えられる組織</p> |
| ② ひとづくり | |
| 外部運動 | <p>A) 未来を自ら切り拓くことのできる人財の育成</p> <p>I. 大人による導き II. 将来を見通し自己実現できる人財 III. 将来のいわき市で働く産業人財</p> |
| | ③ まちづくり |
| | <p>A) 共創のまちづくり</p> <p>I. 市民意識の改革 II. 多様な人財の多様な意見の共有・発信 III. 住み続けられる・働き続けられるまちへ</p> |

4. グランドデザイン解説

① 組織づくり

A) 会員一人ひとりの成長

I. 未来を切り拓く力

地域のオピニオンリーダーとなるべく活動をする私たちは、自らが率先して行動することによって、市民に良い影響を及ぼし前向きな変化を与えることが求められています。一方で、現代社会は様々なことが急速に変化しております。その中で、自分で自分の未来を変えることのできる人財に成長するためには、様々なことに挑戦していく必要があります。そして、その際は自己主義に陥らないように、利他の精神を忘れないようにしましょう。

II. リーダーシップを身につける

我々が組織や地域を先導していくためには、リーダーシップが必要となります。しかし、少なからずリーダーシップをとることが苦手と感じる方もいると思います。ただ、リーダーシップとは、これまで一般的とされてきた「専制型」や「ビジョン型」だけではありません。時代の流れや自分の特徴に合わせ「コーチ型」や「奉仕型」のリーダーシップをとれる人財になることも目指していきましょう。

III. 社業に活かせる経験を積む

いわき青年会議所として、地域社会の発展に奉仕することは重要なことです。一方で、我々は青年経済人として、社業の発展にも貢献せねばなりません。ただ、青年会議所としての活動の中では、社業で有用な「管理職の経験」を若くして積むこともでき、様々な組織の「ガバナンス」の効果も検証できます。また、青年会議所として学ぶ多くのことは、社業にも活かせるはずです。そして、そこで得られた人間関係は、社業にとっても大変有用なものとなるはずです。

B) 組織力の向上

I. 多様性を受け入れる組織

現代では、何か新しいことを始める際、単一の価値観ではうまくいかないことが多くあります。その際、周囲を納得させ、事を進めていくためには、多角的な視点が必要となります。その点、我々の組織は様々な業種の、様々な立場の方々が所属しております。それにより、我々は多様性を持った組織であることができます。我々の強みを、さらに強化するためにも、年齢制限はありますが、同じ志を持つ方を受け入れていきましょう。

II. 挑戦する機会を提供できる組織

会員の成長のためには、いわき青年会議所として、会員に様々なことに挑戦する機会を与える必要があります。また、何かに挑戦する際、会員同士は仲間である一方、ライバルにもなりえます。そして、会員同士互いに切磋琢磨し、お互いに高めあえる組織であるべきです。

III. 地域社会に影響を与えられる組織

いわき青年会議所として活動する以上、地域社会にインパクトを与えられるような運動を展開していく必要があります。そのためには、先を見越した事業の構築はもちろん重要です。しかし、一番重要なのは、会が地域社会から客観的にどう見られているかも意識しながら、組織運営を行っていくことだと考えます。

② ひとつづくり

A) 未来を自ら切り拓くことのできる人財の育成

I. 大人による導き

情報が溢れる現代社会では、青少年は様々な情報を手軽に手に入れることができます。一方で、正確な情報と不必要な情報の取捨選択をすることが難しい状況となっています。そのため、我々大人が、地域社会と連携し、青少年が正しい選択をできるように、様々な気づきを得るための体験や教育を提供することが重要です。

II. 将来を見通し自己実現できる人財

今後、社会がどのように変わっていくかは、誰にも完璧には予想できません。技術の進歩により、必要とされなくなる仕事や自動化される業務が増加することが考えられます。そのような将来を生き抜くためには、将来を見通せる人財になる必要があります。そして、様々な選択肢を持てるように、必要なことを多岐にわたり学ぶ必要があります。

III. 将来のいわきで働く産業人財

いわき市は、人口減少や産業構造の変化など、様々な課題を抱えています。特に若者の市外への流出が問題となっており、これらの課題を克服し、持続可能な発展を実現するためには、将来の産業を担う人財の育成が不可欠です。そのためには、青少年を、いわき市の企業が必要とする、そしていわき市で活躍できる人財に育て上げる必要があります。

③ まちづくり

A) 共創のまちづくり

I. 市民意識の改革

現状、多くの市民の方にとって、まちづくりは自分事ではなく、他人事となっ
てしまっていると考えます。我々いわき青年会議所のような団体や民間企業が
「まちづくり」を推進しても、いわき市に住む「市民の方」の共感が得られなけ
れば、何も成し遂げることはできません。いわき青年会議所の事業に、市民の方
も参加して頂くことで、ともに「まちづくり」を行い、そして「共創のまちづく
り」を推進していきましょう。

II. 多様な人財の多様な意見の共有・発信

情報化社会と言われる現代でも、声の大きい人の意見、発信回数の多い意見が
重視される傾向があります。しかし、そこには出てこない様々な意見を吸い上げ
共有していくことが重要であると考えます。それにより、新たな気づきが生まれ、
ニュースタンドが生まれていく可能性があります。

III. 住み続けられる・働き続けられるまちへ

いわき青年会議所は、持続可能な地域社会の実現を目指していきます。そのた
めには様々な取り組みを行わなければなりません。「安心・安全な生活」を目指
すために、「防災・減災」を徹底していく必要があります。また、新たな観光資
源の創出や、既存の観光資源の発展により、地域を活性化し、魅力的なまちとし
ていきます。最後に、何よりも「若者が働きたい・戻ってきたいまち」としてい
く必要があります。